

COOP Calendar

1月号

January 2023

Vol.175



CONTENTS

年頭のごあいさつ.....1

宮城県生協連会長理事 冬木 勝仁
(みやぎ生活協同組合理事長)

宮城県生協連の活動.....2

- ・宮城県生協連第53回総会（2022年度）第1回監事会報告
- ・宮城県生協連第53回総会（2022年度）第3回理事会報告
- ・「2022年度（令和4年度）北海道・東北地区行政・生協連絡会議」参加報告
- ・宮城県へ「灯油価格の抑制及び安定供給に向けた行政の役割強化を求める要請書」を提出

会員生協だより.....4

- ・みやぎ生活協同組合
- ・生活協同組合あいコープみやぎ
- ・東北学院大学生生活協同組合
- ・宮城大学生生活協同組合

協同のとりくみ.....8

平和のとりくみ.....9

環境のとりくみ.....11

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動...12

NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動.....13

適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動...14

宮城県ユニセフ協会の活動.....15

公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)の活動...16

行事予定.....17

新聞記事.....18

資料.....26



年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます

宮城県生協連会長理事 冬木 勝仁
(みやぎ生活協同組合理事長)



宮城県生活協同組合連合会を代表いたしまして会長理事より、新年のご挨拶と旧年中の御礼を申し上げます。

約3年に及ぶコロナ禍は収束と呼べる状態にはなっていないとはいえ、私たちの生活は徐々に以前の状態を取り戻しつつあります。しかし、長期にわたるコロナ禍への対応は、一時的な変化ではなく、生活スタイルそのものの変化をもたらしました。宅配の量や頻度、商品の種類の変化、お店での購買行動など日々感じられる事柄でも、全国を対象にした統計でも、消費生活の変化は明らかであり、生協もそれに対応した事業展開が求められます。

さて、生協はこれまで様々な平和活動に取り組んできましたが、今こそその取り組みを強め、深める必要があります。

生協が平和活動に取り組む理由はいくつもありますが、最も単純かつ根本的な理由は協同組合の理念と戦争とが相いれないからです。協同組合の「協同」は、個人の独立・自立を基礎とする協同です。戦時下では、個人が全体に従属することを迫る全体主義的傾向が生じます。all for all、全国民がお国のために奉仕するという世の中です。協同組合が掲げる one for all, all for one、一人は万人のために万人は一人のためにという協同の精神と戦争とは相いれないのです。

最近政府が決定した敵基地攻撃能力の保有を見据えた防衛力増強方針は、これまでとは一線を画すものです。また、防衛関連予算の大幅な増額方針を定め、そのための財源として、復興特別所得税に代わる所得税及び法人税、たばこ税の増税を予定す

ることとしています。こうした事態は、まさに納税を通じて「全国民がお国のために奉仕する」状態を連想させます。被災地で復興に取り組んできた生協として、どうあるべきか考える必要があります。

さらに、対案として積極的に争いの火種をなくすことも平和活動として重要です。争いの火種となる貧困、格差、抑圧、差別、ジェンダー不平等など様々な社会の歪みが生じない状態を創り出すことが、平和活動を深化させることにつながります。これはSDGsに示された目標を達成した状態と重なります。SDGsの達成を目指した取り組みも平和活動なのです。

新年にあたり、会長理事としての所感を述べさせていただきました。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

宮城県生協連の活動

宮城県生協連第 53 回総会（2022 年度）第 1 回監事会報告

第 1 回監事会は、12 月 13 日（火）午前 11 時 30 分より、フォレスト仙台 5 階会議室において開催され、監事 3 人（内 1 人が WEB 参加）、理事 3 人、事務局

2 人が参加しました。

小山茂樹監事議長により、議事がすすめられました。

野崎和夫専務理事より、2022 年度上期（2022.4.1～2022.9.30）

の経営状況および財務諸表、理事の業務執行状況について報告がありました。経営状況及び財務諸表監査、理事の業務執行状況監査を協議、実施しました。

宮城県生協連第 53 回総会（2022 年度）第 3 回理事会報告

第 3 回理事会は、12 月 13 日（火）午後 1 時 30 分より、フォレスト仙台 5 階会議室において開催され、理事 13 人、監事 3 人、顧問 2 人が参加しました。（内、理事 4 人、監事 1 人が WEB 参加）

議長に冬木勝仁会長理事を選任し、議事に入りました。

【議決事項】

社会貢献事業積立金（任意積立金）の活用について、野崎和夫専務理事より提案があり、可決承認されました。

【協議事項】

2023 年度事業計画策定にあたり、「2030 年ビジョン第 2 期中期方針および全国生協の 2023 年度活動方針」について野崎和夫専務理事より、「全国の大学生協の 2022 年度のまとめと 2023 年度活動方針」について藤巻正之理事より紹介があり、情報を共有しました。

【報告事項】

1. 労働者協同組合法の施行につ

いて、日本労働者協同組合連合会センター事業団の佐々木洋志南東北本部長より、10 月から施行された労働者協同組合法と日本労働者協同組合連合会について説明がありました。

2. 会員生協の取り組みについて、河野雪子副会長理事、小山茂樹監事、高橋千佳理事、田中康治監事より報告がありました。

3. 上半期経営状況・業務報告、2022 年度政党懇談会開催計画、2022 年度消費生活協同組合役員研修会開催計画、協同組合こんわ会の活動、アルプス処理水海洋放出に反対する署名の取り組み、NPO 法人消費者市民ネットとうほくの活動、その他の活動について、野崎和夫専務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

4. 第 1 回監事会について小山茂樹監事より報告があり、全員異議なく了承しました。

5. 灯油関連報告、第 43 回宮城県生協組合員集会開催報告、平和・憲法 9 条関連報告、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税率引き上げをやめさせる活動について、加藤房子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

6. NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動について、渡辺淳子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

【文書報告事項】

行政・議会関連報告、共催・後援依頼等について、文書により報告があり、全員異議なく了承しました。



宮城県生協連の活動

「2022 年度（令和 4 年度）北海道・東北地区行政・生協連絡会議」参加報告

北海道・東北地区の 7 道県の行政の生協担当者と生協連とで年 1 回開催している「2022 年度行政・生協連絡会議」が、11 月 9 日(水)に開催されました。秋田県を幹事県として、秋田キャッスルホテルをメイン会場に WEB 会議方式で開催され、38 人が参加しました。

はじめに、主催者の秋田県生活環境部の真壁善男部長と秋田県生協連の三浦貴裕会長理事より挨拶がありました。続いて、

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室の井上宏室長からご挨拶があり、宇賀神優歩主査から「全国の先駆的な消費生活協同組合が行っている地域づくりのための取り組み」の紹介とアンケートへの協力依頼がありました。

基調報告を、国際教養大学国際教養学部工藤尚悟准教授より「人口減少社会における持続可能な地域づくり」についてお話しいただきました。その後、

日本生協連渉外部の毎田伸一郎長より、「持続可能な社会の実現を目指した全国の生協の社会的取り組み」について報告がありました。

休憩の後、「SDGs と消費者教育の取り組みや行政と生協の連携」について、7 道県から報告し情報交換を行いました。

地域共生社会の実現に向けて、生協組織の役割と行政との連携について考える機会となりました。

宮城県へ「灯油価格の抑制及び安定供給に向けた行政の役割強化を求める要請書」を提出

11 月 22 日(火)、宮城県知事あての「灯油価格の抑制及び安定供給に向けた行政の役割強化を求める要請書」を、環境生活部消費生活・文化課の黒澤治課長に、小野幸恵みやぎ生協地域代表理事が提出しました。その後、野崎和夫専務理事が要請内容の趣旨説明を行いました。(後掲)

今冬は、円安の進行とロシアのウクライナ侵攻による原油高の影響で、国の「燃料油価格激変緩和対策事業」による対策があってもなお、昨年同時期の 1.14 倍になっていることから、1) 県民の立場にたって「安心でき

る灯油の量の確保と価格の抑制を最優先」に不測の事態に迅速に対応できる万全の体制で臨むこと、2) 原油価格の高騰などに便乗した値上げが行われないよう、価格の動向を調査・監視し県民に対して情報提供すること、3) 経済的弱者に対する支援やコロナ禍への救済策の一つとして、寒冷地のセーフティネットとして、福祉灯油等の購入費助成を全市町村で実施できるよう県として取り組んでほしいことなどを要望しました。

その後の意見交換では、参加されたみやぎ生協の地域代表理



黒澤課長(右)に要請書を手渡しました

事一人ひとりから、灯油に関する地域の実情を伝えました。

正式回答については、後日、文書で行うとの話がありました。

消費者の立場から、灯油に関する行政施策を要請しました。

※12 月 21 日付県からの回答書(後掲)

《参加者》

▶宮城県環境生活部消費生活・文化課
黒澤治課長、伊藤真美子主幹（消費者行政班長）
半澤充消費者行政班主査
▶宮城県保健福祉部社会福祉課
相澤秀彦参事兼課長、瀬川禎亮主幹（援護恩給班長）

▶宮城県生協連
野崎和夫専務理事、加藤房子常務理事
▶みやぎ生協
安達泉理事、小野幸恵理事、齋藤裕美理事
▶日本生協連北海道・東北地連
大沢志佳子事務局長、蛭田啓事務局長

会員生協だより

みやぎ生協

親子防災ワークショップ「ぼうさい探検隊」

みやぎ生協では、親子で参加する現地体験型の企画「親子防災ワークショップ」を通して、可能な限り自身の目と手で直接触れて学び、若い世代へ震災や災害の備えを伝える機会としています。

10月29日(土)、みやぎ生協文化会館ウィズで、親子防災ワークショップ「ぼうさい探検隊」を開催し親子9組15人が参加しました。

東北福祉大学の学生サークル Positive Action Students Supporters (通称: PASS) の皆さんによる

防災レンジャーショーや体操、クイズなどを行いました。

防災レンジャーショーでは、敵役(災害)の強さやストーリー

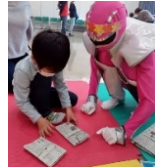
の深さに、子どもたちが息を呑む場面もありました。

そのほかにも、新聞紙スリッパづくり、ツナ缶ランタン、ポリ袋調理などを体験するスタンプラリーを行い、災害時に役立つ身近な知恵を自身の目と手で直接触れていただきました。

参加者からは、「防災レンジャ



防災レンジャーショー



体験ブース

ーショーがすごくて、びっくりしました」「知らないことばかりで勉強になり、ミッション(スタンプラリー)形式で、やりがいがありました」「実際に手足を動かして体験できたことが、子どもたちには楽しかったようです。良い経験になりました」などの声が寄せられました。

若い震災語り部のお話を聴く会「あの日を語ろう 未来を語ろう」

東日本大震災当時、子どもだった若者たちが見てきたこと、考えたことを聴き、震災を忘れないことや、未来に向けてわたしたちができることを、改めて考える機会として、若い震災語り部のお話を聴く会を開催しました。

11月2日(水)、メイン会場の日立システムズホール仙台エッグホールとメンバー集会室のサテライト9会場に108人、オンライン配信43人(全国の13生協・連合会含む)の計151人が参加しました。参加者からは、「災害・防災を自分事として捉

え、大切な人を守るために考えたい、話し合っていきたいと思う」「語ってもいい、語らなくてもいい場の提供、対話の大切さなど、震災だけでなく、とても勉強になった」などの声が寄せられました。

さらに、登壇者のご厚意により可能になった1か月間のアーカイブ配信では、23生協・連合会から79人にご視聴いただき、全国各地の生協のみなさんにも、改めて防災の取り組みを考えていただく機会となりました。

(生活文化部 山田尚子)



メイン会場の様子

<ナビゲーター> ※左から
大川伝承の会共同代表 佐藤敏郎さん

<若い震災語り部のみなさん>

雁部那由多さん
(東松島市出身、当時小学5年生)

西城楓音さん
(石巻出身、当時小学2年生)

清水葉月さん
(福島県浪江町出身、当時高校2年生)

会員生協だより

みやぎ生協

第41回「めぐみ野」交流集会

11月29日(火)、2022年の「めぐみ野」活動の意義と成果を確認するため、第41回「めぐみ野」交流集会を仙台国際センターで開催しました。メンバー（組合員）、生産者、提携団体が一同に会し、580人が参加しました。

午前の全体会では、京丸園(株)代表取締役の鈴木厚志さんをお招きし、「ライバルはディズニーランド！～笑顔を耕すユニバーサル農業の挑戦～」と題しご講演いただきました。参加者は、多様性をいかした働き方で農業を盛り上げる素晴らしさを感じていました。

午後は、果物や畜産、水産、牛乳など9つの分科会に分かれ、生産者の方々の生の声を聞きました。生産コストの増加や自然災害など、様々な要因で困難な状況が続いていますが、「商品を買って、食べ続けることで応援したい」というメンバー（組合員）の思いを、直接伝える機会となりました。

コロナ禍でこれまで様々な制限がありましたが、3年ぶりの午前・午後を通しての「めぐみ野」交流集会は、参加者にとってとても有意義な時間となりました。

顔とくらしの見える産直
めぐみ野



講師の京丸園(株)代表取締役鈴木厚志さん



牛乳の分科会で発表する生産者

(生活文化部 小國美奈)

「ALPS 処理水海洋放出反対署名」特別学習編

12月10日(土)、「ALPS 処理水海洋放出反対署名」特別学習編『誰にでもわかる！汚染水とは何か？なぜ汚染水は増え続けるのか、～汚染水を減らす止水対策～』をテーマに学習会を開催しました。全国各地からオンライン・会場参加合わせて、32団体60人に参加いただきました。

講師の柴崎直明先生（福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ代表・福島大学共生システム理工学類教授）からは、「トリチウムの半減期は12～13年。可能な範囲で安全な施設で

保管すれば、リスクの低い状態に持っていくことができるので、今すべきは、急いで海洋放出することではなく、汚染水の発生量を減らすこと。適切で効果的な対策を講じるためには、地下の地質を詳しく知ることが大切」であるとお話をいただきました。

参加者からは、「こんなにいろいろわかっているのに、なぜ国や東電はそれを活かそうとしないのか」「国や東電は本気で汚染水を止める気はあるのだろうか」「きちんと調査せず、その場しのぎの議論をしているのではな

講師 福島大学
柴崎直明教授



学習会の様子



いか」など、まだまだ海洋放出については疑問や納得ができないことが多く、学んで広げる必要性があることがわかりました。

(ふくしま県本部課長

池町江美子)

会員生協だより

生協あいコープみやぎ

社会福祉法人みんなの輪「設立 20 周年」

10 月 16 日(日)、トークネットホール仙台にて、社会福祉法人みんなの輪の「20 周年記念集会」が行われました。

みんなの輪は、あいコープの組合員が利用するパンや焼き菓子、農産品、せっけんに至るまで商品を作る生産者でもあります。

単に、障がいがある利用者さんたちの働く場所を提供するだけではなく、生協組合員が商品を購入し続けることで、みんなの輪の福祉事業を支える仕組みがあります。生協は、「困ったときにはお互い様」「支えあい」が

基本の組織です。みんなの輪の存在があるからこそ、あいコープは生協と言えると言っても過言ではありません。

みんなの輪の吉武洋子理事長からは、改めてみんなの輪の歴史をふりかえると共に、「現在の社会において、より弱い立場の人々に手を差し伸べないならば生協として失格だ。今の社会に対してもっと怒っていい」と激励をいただきました。

あいコープからみんなの輪に感謝を込めて、『20 周年記念ロゴマーク』と『記念動画』を寄



記念のロゴマークと動画を寄贈

㊤みんなの輪 吉武洋子理事長

㊦あいコープみやぎ 高橋正人専務理事

贈しました。「障害のあるなしにかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会をめざして」という理念を共に目指し、社会を変える一歩に繋げようと、会場が一つになりました。

(理事長 高橋千佳)

4 年ぶりの「Wa!わぁ祭り」

11 月 19 日(土)、夢メッセみやぎにて、あいコープみやぎのお祭り「Wa! わぁ祭り」が行われました。

毎年秋に開催して来ましたが、台風被害と新型コロナウイルスの影響で2年間中止を余儀なくされ、去年はオンライン開催のみ。今年は4年ぶりに対面で開催することができました。

とはいえ、新型コロナの感染はいまだ拡大を続けており、従来通りの祭りを開催するのは難しいのが現状です。お買い物や食べ物の提供なしで、どうしたらみんなで楽しめるか知恵を絞

りました。

生産者によるクイズやトークショー、組合員自身が農業体験で育てた無農薬米の稲わらで縄を作るワークショップ、水産生産者による魚の捌き方講座など、体験型のイベントを準備。組合員、生産者、職員が、午前・午後それぞれ約 300 人集まり、祭りを楽しむことができました。

組合員と生産者が互いに顔を合わせ、話し、日頃利用している商品に、さらに愛着を持つことができたように思います。会場で買い物や飲食ができなくても、いえ、できないからこそ、



水産会社社長による鮮魚捌きショー



生産者によるステージイベント

思い出深い印象的な祭りとなりました。(理事 鈴木真奈美)

会員生協だより

東北学院大学生協

「さよならキャンパス！フォトコンテスト」

2023年4月に開学される新キャンパス（五橋キャンパス）に、泉キャンパスと多賀城キャンパスが集約されるため、泉・多賀城キャンパスへの通学は今年度が最後となります。

そこで、これまでお世話になった泉・多賀城キャンパスと、キャンパス内の店舗食堂で働く職員さん方へ感謝の気持ちを届けるために、学生委員会で「さよならキャンパス！フォトコンテスト」を主催しました。

11月初旬から約1ヶ月間、撮

影した思い出の写真と大学生協職員さん方への感謝のメッセージを組合員から募集し、特に綺麗な写真と心温まるメッセージを送ってくださった方々には、最優秀賞、優秀賞、佳作として発表し、景品を贈り表彰しました。

入賞した写真は、学生委員会のTwitterとInstagramで公開し、私たちの思い出の詰まった泉キャンパス・多賀城キャンパスへの感謝の気持ちを、たくさんの学生と共有して形にすることが



できました。

（学生委員長 松浦倫也）

宮城大学生協

「マグロの解体ショー」で宮城の魅力を再発見！

11月9日(水)、宮城大学太白キャンパスで「マグロの解体ショー」を行いました。

今回の企画を通し、宮城の大学に通う学生に知られていない宮城の魅力あふれる名所や名産品を、その中でも今回は「三陸塩竈ひがしもの」を知ってもらうことで、宮城の魅力を感じ、興味を持ってもらうことを目的としました。

当日は、本当にたくさんの学生・教職員がマグロの解体ショーを見るために、そしてマグロ

丼を食べるために、お越しいただき大盛況を収めることができました。

なかなかお目にかかれないまるまる一匹のマグロが目の前で解体されていくその迫力に目が釘付けになっていたのではないかと思います。また、解体されたマグロをその場でマグロ丼として食べることもでき、とても笑顔で溢れていたと思います。

解体ショーで扱った「三陸塩竈ひがしもの」以外にも、宮城には素晴らしい場所・食べ物は



メバチマグロ(三陸塩竈ひがしもの)の解体の様子を見つめる学生たち



マグロ丼を100円で提供しました。

まだまだあります。知らないなんてもったいない。今回の「マグロの解体ショー」のような機会を通して、よりたくさんの宮城の魅力を見つけていきたいです。（学生委員 伊藤英玲奈）

協同のとりくみ

宮城県協同組合こんわ会

こども食堂へ支援品を贈呈

12月8日(木)、宮城県協同組合こんわ会（構成団体：宮城県農業協同組合中央会、宮城県生活協同組合連合会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会）は、みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、こども食堂への支援品の贈呈式を行いました。参加は、協同組合こんわ会、みやぎこども食堂ネットワーク、子ども食堂運営者等の関係者20人でした。

宮城県協同組合こんわ会では、新型コロナウイルス感染拡大等により困窮している家庭への支

援活動への取り組みを通じ、地域社会への奉仕・貢献活動を行なうことを目的に実施しました。みやぎこども食堂ネットワークを通じ、仙台地域にある希望のあったこども食堂（23団体、600世帯分）を対象に、支援物資の配布を実施しました。

こんわ会の会計より、令和4年産環境保全米ひとめぼれを支出するとともに、米（農協）、新海苔（漁協）、乾燥しいたけ（森連）などの支援物資を持ち寄りました。生協からは、フルーツポンチ缶、チョコレート600



こども食堂の担当者(中央)に贈呈しました

世帯分を準備しました。

みやぎこども食堂ネットワークからは、「高くて油さえ買えないという食堂もあるので、まとまった支援は本当にありがたいです。チョコレートは子どもが喜ぶと思います」と話されていました。

宮城県労働者福祉協議会

宮城県知事、仙台市長へ勤労者福祉に関する要請を実施

宮城県労働者福祉協議会（構成団体：連合宮城、東北労働金庫宮城県本部、こくみん共済coop宮城推進本部、宮城県生協連、労働者福祉資産協会、労働福祉センターみやぎ等）では、勤労者福祉に関する政策制度要請を、宮城県及び仙台市に行いました。

12月14日(水)、宮城県庁において、村井嘉浩宮城県知事に要請書を手渡し懇談しました。主な要請項目は、大規模災害への被災者支援、新型コロナウイルス

感染症拡大防止に向けた対策、原油価格高騰対策などの消費者政策の充実強化、ディーセントワークの確立、フードバンク活動、安心・信頼できる社会保障の構築、医療・介護体制の整備等、福祉灯油（灯油購入助成）等について要請しています。

村井知事からは、要請の趣旨を十分ふまえて宮城県の施策のなかで検討していくことと、原油高騰対策、フードバンク活動について話がありました。



大黒雅弘会長より要請書を提出しました

12月22日(木)、仙台市役所において、郡和子仙台市市長に要請書を手渡し懇談しました。

郡市長からは、要請の趣旨をふまえて仙台市の施策のなかで検討していく旨の話がありました。

平和のとりくみ

平和とよりよい生活のために」をスローガンに、核兵器廃絶を訴えるとともに、憲法 9 条を含めた日本国憲法の良さと大事さを学び、平和を守る活動を広げていきます。

みやぎ生協

絵本でつなごう「へいわの輪」プロジェクト

2021 年 11 月から 2022 年 2 月まで、毎日の暮らしの中で「しあわせ」や「へいわ」を感じたり、心に残る絵本とコメントを募集しました。

メンバー（組合員）のみなさまからご紹介いただいた絵本を、投稿していただいた親子 60 組にプレゼントした他、宮城・福島

を送り、お申込みのあった 263 か所に贈りました。また、絵本キャラバンや講演会を開催しました。

絵本でつなごう「へいわの輪」プロジェクトサイト



絵本キャラバン

投稿された 126 冊の絵本とコメントを展示し、思いを共有する「絵本キャラバン」を開催しました。



福島県矢吹町での様子

「絵本キャラバン」は、開催地域、行政や団体との新たな繋がりを作るツールにもなっています。また新聞社からの取材もあり、その記事を見た方からお問い合わせがあるなど、「絵本キャラバン」が平和活動の一端になっています。

今後も、「絵本キャラバン」を継続していきます。

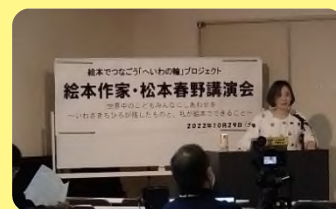
▼巡回場所（2022 年 8 月～12 月）

宮城県：仙台市・気仙沼市など 6 会場

福島県：福島市・伊達市・郡山市・白河市など 7 会場

絵本作家・松本春野講演会

10 月 29 日（土）、エル・パーク仙台にて、絵本作家・松本春野講演会「世界中の子どもみんなに平和としあわせを～いわさきちひろが残したものと私が絵本でできること～」を開催しました。



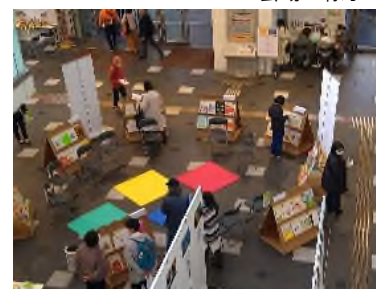
松本さんは、「絵本キャラバン」でも紹介された『ふくしまからきた子』『ふくしまからきた子 そつぎょう』の著者です。

いわさきちひろさんを祖母に持つ松本春野さんは、講演でたくさんの絵をスクリーンに映し出しながら、松本春野さんから見たいわさきちひろの生涯や、ご自分の作品や活動についても大変わかりやすく、お話いただきました。

▼参加者の感想

- ・大切にしたいこと、自分が思うことを、子どもたちに伝えていきたいと思います。
- ・やわらかい水彩画を通して私たちに問いかけてきたいわさきちひろの絵をあらためてしっかりと心に留めることができました。
- ・いわさきちひろさんの DNA を受け継いだ春野さん。優しさ、芯の強さ、子どもに愛を平和をの思いを受け継ぎ、このような活動をされていることに感謝します。

会場の様子



「ピースアクション2022 IN みやぎ」

11 月 5 日（土）、仙台アエル 1F アトリウムにて、昨年に引き続き「ピースアクション 2022 IN みやぎ」を開催しました。核兵器廃絶と若い世代への継承をテーマに、今回は「絵本キャラバン」をメイン企画としました。

8 台の本棚に絵本 126 冊とおすすめコメントを展示しました。また絵本の読み聞かせや、平和

七夕、広島市立基町高校美術部の「原爆の絵」の展示も行いました。

準備の段階から多くの親子が絵本を楽しんだり、様々な年代の方が絵本を手にとってじっくりと見入っていました。

参加者からは、「絵本を通しての平和や戦争、読み聞かせ大変よかった。心にじんわりと染

み入りました」、小さいお子さんからも「しってるえほんがたくさんあってうれしかった」など、かわいい感想が寄せられました。（生活文化部 佐藤妙子）

平和のとりのくみ

「平和とよりよき生活のために」をスローガンに、核兵器廃絶を訴えるとともに、憲法 9 条を含めた日本国憲法の良さと大事さを学び、平和を守る活動を広げていきます。

みやぎ憲法 9 条の会

「憲法 9 条を守り生かす みやぎのつどい 2022」

11 月 3 日(木・祝)、仙台サンプラザホールにおいて開催され、1,100 人が参加しました。

オープニングで宮城のうたごえ 39 人の皆さんが、「ウクライナ民謡」「ウクライナ国歌」などの合唱を行いました。

司会の石垣八重美さん（みやぎ生協地域代表理事）からの開会宣言後、主催者挨拶がありました。

続いて、ジャーナリストで TBS「報道特集」特任キャスターの金平茂紀さんが、「メディアの現場から見る戦争と平和・憲

法」という演題で講演されました。ウクライナ侵攻が日本に突き付けたこととして、他国から侵略されたら防衛のための戦争はやむを得ないのではないかと、戦争に乗じた改憲や核共有の動きとの関係で、戦争をしてはいけないという憲法 9 条の価値が高まっている。ジャーナリズムが正確な情報を伝えることで、戦争の惨禍を世界に伝えることの重要性を強調しました。

次に、ドイツ文学翻訳家・社会運動家・九条の会世話人の池田香代子さんが、「カルトに民主



金平茂紀さん



池田香代子さん

主義を蝕ませないために」と題しお話されました。

続いて、金平さんと池田さんが、報道のあり方について対談しました。

最後にアピール提案があり、満場の拍手で採択され、憲法 9 条を守り生かすことの大切さを確認するつどいとなりました。

また、参加者から 471,742 円のカンパが寄せられました。

核兵器廃絶ネットワークみやぎ

「講演会 & 第 1 回総会」

11 月 25 日(金)、「講演会 & 第 1 回総会」を福祉プラザで開催しました。

開始前に、漫画家で元日本被団協事務局次長の西山進さんと「おり鶴さん」を紹介した東北放送ニュース特集の DVD を上映し、ご逝去された西山さんに参加者全員で黙祷を捧げました。

木村緋紗子代表が開会挨拶を行い、西山さんのことと講師の栗原さんの紹介をし、「被爆者がなぜ運動を続けているのかを皆

さんに考えてほしいし、皆さんに運動を続けていってほしい」と訴えました。

講演会では、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会事務局の栗原淑江さんに、「被爆者とその運動から学びつづけて」をお話ししていただきました。被爆者の調査活動を学生時代から取り組んできたこと、「核兵器廃絶と援護法の制定」という二大要求を明確にして運動を作ってきた経緯など、詳しく教えて



栗原淑江さんの講演

くださいました。そして、「核廃絶ネットワークがノーモア・ヒバクシャの拠点になることを期待している」と訴えられました。

引き続き第 1 回総会を行い、事務局からの提案の後、6 人の方から議案に対する質問や意見などがありました。議案は全て承認され、2023 年に向けて取り組みが共有されました。

(常務理事 加藤房子)

環境のとりくみ

生協の環境活動は生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。

大学生協東北ブロック

「森林の楽校（もりのがっこう）」

10月22日(土)、大学生協東北ブロックと認定NPO法人JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）が主催となり、「森林の楽校（もりのがっこう）」を開催しました。

木の誕生から伐採、木材利用といった一連の流れを、目で見て肌に触れて感じることをテーマに、福島県会津地方で行いました。東北地区の学生や職員、関東地方から参加の社会人など14人が参加しました。

カラマツの苗木を育てている「南会津樹木苗木センター」の見学や間伐体験、大学生協で使用している間伐材で造られた「樹恩割り箸」製造の見学、木材を使用した南会津町役場の見学など、盛りだくさんの1日で



南会津樹木苗木センターでカラマツの苗木の説明を受けました。



した。学生と社会人が、互いの経験を交えて交流することも出来ました。

今回の企画を通して、持続的に森林環境を維持していくためには、人の手が必要であることを実感しました。森林の現状を知るといふ第一歩を踏み出せたと思うので、今後は私たち一人ひとりが出来ることを考え行動していきたいと思います。



間伐体験をしている様子

（東北ブロック学生委員
山形大学3年 田中瑞希）

認定NPO法人 JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）

森林を通じて、都市部と農山村のネットワークを広げる活動を行っています。



国産間伐材製「樹恩割り箸」



樹恩割り箸 使用大学生協（2021年度）

神戸大学生協
京都大学生協
広島修道大学生協
山口大学生協
岡山大学生協
島根大学生協
鳥取大学生協
広島大学生協

就実大学生協
福山市立大学生協
滋賀県立大学生協
関西学院大学生協
大阪大学生協
下関市立大学生協
梅光学院大学生協

愛知大学生協
三重大学生協
静岡大学生協
富山大学生協
富山高専専門学校生協

北九州市立大学生協
西南学院大学生協
西南女学院大学生協
長崎県立大学生協
佐賀大学生協
大分大学生協
宮崎大学生協
鹿児島大学生協
鹿児島県立短期大学生協

香川大学生協
徳島大学生協
愛媛大学生協
松山大学生協
松山東雲女子大学生協
高知県公立大学生協
高知大学生協

山形大学生協
岩手大学生協
福島大学生協
宮城大学生協
東北学院大学生協
岩手県立大学生協
宮城教育大学生協
宮城学院大学生協
弘前大学生協
盛岡大学生協
東北工業大学生協
尚絅学院大学生協
みやぎインターカレッジコープ

明治学院大学生協
和光大学生協
東京工芸大学生協
電気通信大学生協
東京農工大学生協
東京薬科大学生協
明治薬科大学生協
横浜国立大学生協
芝浦工業大学生協

群馬大学生協
宇都宮大学生協
茨城大学生協
慶応義塾大学生協
東京農業大学生協
新潟大学生協
信州大学生協
高崎経済大学生協
埼玉大学生協

JUON NETWORK ホームページより

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(略称:消費者懇)【構成団体】宮城県生協連、NPO 法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生協、生協あいコープみやぎ、(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

学習会「大きく変わった食品表示 あなたはご存知ですか？」

12月19日(月)、フォレスト仙台2階フォレストホールにおいて、消費者懇主催による学習会を開催し、各構成団体からのリーダー層の方々や職員など168人(内オンライン参加131人)が参加しました。

はじめに、開会にあたり野崎和夫座長(宮城県生協連専務理事)から主催者挨拶があり、続いて、講師に消費生活コンサルタント・一般社団法人フーコム代表の森田満樹さんをお迎えし、「大きく変わった食品表示あなたはご存知ですか？」と題して学習講演を行いました。

食品の表示が、2020年4月から新ルールに変わりました。今年4月からは、食品添加物表示における人工・合成の用語が削除され、無添加・〇〇不使用という添加物表示に規制が入るようになり、来年は遺伝子組み換えの表示が変わります。

食品表示は消費者にとって、その食品の品質を判断し選択する上でなくてはならない情報源です。消費者が求める食品表示になっているのか、現状と課題について理解することを目的に開催しました。

2015年に施行された「食品表示法」により、食品表示に関わるルールが大きく変わってきて

います。3年毎に調査検討をする食物アレルギー物質表示も、ナッツ類の流行が影響し、本年くるみが特定原材料に準ずる物質に追加となりました。基本すべての食品に、栄養成分表示の義務化やアレルギー物質の表示の仕方などが変わっています。

「食品表示法」では、保存料や着色料、甘味料や酸化防止剤などの食品に使用されたすべての添加物を商品パッケージに明記しなければなりません。一方で、添加物の不使用に関しては特に規定がなく、提供する食品メーカーなどに判断が委ねられていました。

消費者の誤解を招くような食品表示を改善するために、消費者庁は2021年3月から9回の検討会を開催し、「食品添加物の不使用表示に関するガイドライン」を策定しました。

検討会の委員として不使用表示ガイドラインの土台作りに携わった立場から、森田さんは食品添加物の安全性や規制、指定のしかた、表示に至るまで、実際の表示例を示しながら説明する一方で、「わかりにくい部分があり、誤解を生んでいる」と指摘しました。

「遺伝子組換え表示制度」が17年ぶりに見直され、これまで



講師の森田満樹さん

意図せざる混入を5%以下に抑えている大豆及びとうもろこし並びにそれらを原材料とする加工食品には、任意表示として『遺伝子組換えでない』等と表示することができましたが、2023年4月1日からは、適切に分別生産流通管理され遺伝子組換えの混入が無いと認められる大豆及びとうもろこしと加工品のみが『遺伝子組換えでない』等の表示ができることとなります。

「消費者と事業者をつなぐコミュニケーションツールである食品表示や食品安全を理解するために、消費者もリテラシー(読み解く力)の向上が求められている。おかしいと思ったら販売元や専門機関に問い合わせすることも必要である」とお話されました。

その後、活発な質疑と意見交換が行われ、とても分かりやすいお話で参加者は最後まで聞き入っていました。

(事務局長 加藤房子)

NPO 法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体 18、個人正会員 18、団体賛助会員 3、個人賛助会員 64(2022 年 6 月現在)

仙台市長及び仙台市議会議員へ提出

「燃料費等の物価高騰に伴う福祉施設等への 2022 年度冬季暖房費支援に関する要望書」

2022 年に入ってから物価高騰は、福祉施設等にも大きな影響を及ぼしています。

多くの施設種別において、水道光熱費や燃料費等の負担が上昇しており、この影響が長期化すれば施設運営に甚大な影響が

生じます。

社会福祉事業所の現状を踏まえ事業者の安定的な事業運営が行えるよう、仙台市の実効性のある施策の推進や支援を求め、11 月 22 日(火)、郡和子仙台市長及び赤間次彦仙台市議会議員

あてに「燃料費等の物価高騰に伴う福祉施設等への 2022 年度冬季暖房費支援に関する要望書」を提出しました。(後掲)

併せて、要望書を仙台市議会各会派に回付し、協力を要請しました。

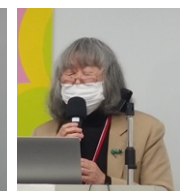
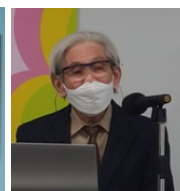
「これ以上の介護保険後退を許さない！みやぎ県民フォーラム 2022」

12 月 11 日(日)、フォレスト仙台第 5・6 会議室をメイン会場に、だれもが安心して利用することができる介護保険制度を目指し、実行委員会構成団体の 15 団体主催による「これ以上の介護保険後退を許さない！みやぎ県民フォーラム 2022」を開催しました。介護事業者など、オンライン配信を含め約 114 人が参加しました。

第 1 部は、『これ以上の介護保険後退を許さない 介護保険改定 2024』と題して、社会福祉法人こばと福祉会理事長の正森克也さんを迎え、コロナ禍や物価高騰下における介護・福祉現場の課題や、介護保険制度 2024 年改定について講演いただきました。正森さんは、「新型コロナは、日本の公的責任による社会福祉・社会保障・公衆衛生の脆弱さを浮き彫りにした。3 年に及ぶコロナ禍の影響により、介



第1部 社会福祉法人こばと福祉会正森克也理事長の講演



第2部 要介護者を支える立場から発言（事業者・医師・家族など）

護・福祉事業は機能不全が常態化する中で、2024 年度改定に向け国民や事業者を苦しめる介護保険改悪が行われようとしている。高齢者の生活を守り、支える制度の実現を求め、地域から介護・福祉制度拡充のための世論を広げることが必要である」と力強く話されました。

第 2 部では、事業者、医師、

家族など 4 人の方々から、介護をめぐる現状について現場からの実態が報告され、これ以上の介護保険後退を許さない意志を参加者全員で共有しました。

最後に、実行委員から集会決議案が提案され採択されました。(後掲)

(事務局長 渡辺淳子)

適格消費者団体 認定 NPO 法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称: ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

2022 年度「第 4 回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」

11 月 16 日()、「第 4 回消費者被害事例ラボ」が開催され、オンラインを含む 16 人が参加しました。

「消費者契約法上の不当契約に係るいわゆる”グレイリスト”について」をテーマに、尚絅学院大学の栗原由紀子教授が解説しました。

不当条項規制とは、相手方の権利を制限し、又は相手方の義務を加重する条項については定型取引の態様及びその実情並びに取引上の社会通念に照らして、「信義則」に反して相手方の利益を一方的に害すると認められるものは合意しなかったとみなされます。

不当条項リストのうち、「ブラックリスト」は該当すれば常に不当条項であるとみなされる条項、いわゆる「グレイリスト」は該当すれば不当条項であると

推定される条項、しかし事業者が不当性を阻却する事由を主張立証することで不当性が覆るものを指します。また、消費者契約法における不当条項規制の趣旨、意義は、情報、交渉力において劣位する存在である消費者を保護し、契約自由の原則に委ねておくのが必ずしも適切でない場合、当事者の決定した契約内容に介入し、不当な内容の契約条項の拘束力を否定し、構造上、個別条項(消契法第 8 条)と一般条項(消契法第 10 条)により規制しています。現行法の不当条項は、個別規定と一般条項はなく、比較法的にみても「貧弱」であり、条項の不当性が消費者にも事業者にも分かりにくくなっている。そのため不当条項の充実が必要であり、「ブラックリスト」だけではなく「グレイリスト」を設けるべきであり、

講師
尚絅学院大学
栗原由紀子教授



賛成な見解を示している学者や弁護士が多い。反対の見解は、事業者の行動を阻害し、取引を無用に混乱させる懸念があるなど意見が分かれている、と解説されました。

その後の意見交換では、グレイリストの概念がかえってマイナスに働かないか、同じ条項でも、業種、業者によってブラックになることがありグレイ、ブラックと振り分けず不当条項は全てブラックにすべきや、モデル約款を示しそれに反するとダメというほうがすっきりするのではないかなど、様々な意見が出されました。

(事務局 金野倫子)

学習会のご案内

「消費者被害とマインドコントロール」 ーなぜ人はだまされるのかー

講師 立正大学心理学部 西田公昭教授

2023 年 3/4 (土) 10:30~12:30

会場 仙台弁護士会館 4 階 ホール
仙台市青葉区一番町 2 丁目 9-18

定員 会場 50 人・WEB100 人



※仙台弁護士会所属の弁護士による全国統一教会被害対策弁護団からの被害状況や今後の活動の報告も予定しています。

【講師紹介】

立正大学心理学部対人・社会心理学科教授。
マインドコントロールに関する研究で知られる社会心理学者。
日本脱カルト協会代表理事。消費者庁「消費者契約に関する検討会」「霊感商法等の悪質商法への対策検討会」委員。
著書に「だましの手口」等。マスメディアにも多く出演。



【お申込み方法】

QR コードを読み込み Google フォームに必要事項記載の上、
2月27日(月)までにお申込ください。
QR コードが読み込めない場合は、
下記の URL を入力すると参加申込フォームへ移ります。
URL : <https://forms.gle/14rGZY5Gq9pUuev77>



参加費無料!

【お申込み・お問合せ】消費者市民ネットとうほく

公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク（MELON）の活動

みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境 NGO です。会員数:個人 405、法人 54、任意団体 8(2022 年 12 月現在)

「気候変動 × SDGs ギャラリートークイベント」

12 月 4 日(日)、フォレスト仙台 2 階フォレストホールにて、「気候変動×SDGs ギャラリートークイベント」～一緒に考えよう!!『なぜ、今行動しなければならないのか?』～を開催しました。

世界的に気候変動問題が深刻化し、日本でも 2050 年までに CO₂排出量の実質ゼロに向けて国を挙げて取り組みをすすめる中で、一般の人々に気候変動問題を理解していただき、行動を起こしてもらうことを目的に実施しました。YouTube 配信併用で行い、会場とオンライン含め 100 人が参加しました。

はじめに講師の東京大学未来ビジョン研究センター教授で国立環境研究所上級主席研究員の江守正多さんから「地球温暖化・気候変動の最新情報につい

て」、次に一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノさんから「気候変動の影響で水没の危機にある島国キリバス共和国の現状について」、また話題提供として一般社団法人サステナビリティセンター代表理事の太齋彰浩さんから「南三陸の海の現状について」、それぞれご講演いただきました。

最後に全員で参加者の質問に答えていく形で、ギャラリートークを行いました。

江守さんのお話しでは、このまま何も対策をしなかった場合に地球の平均気温がどれだけ上昇するかのシミュレーションなどを示して、将来世代に本当に人間が生きていけない状況が起こりうることを説明していただきました。

オノさんのお話しでは、キリ

バス共和国がすでに気候変動による高波や台風などの被害を毎年受けていること、このままいけば国が水没してしまう危機に瀕していることを切実にお話しいただきました。

太齋さんには、三陸の海で見られる魚の種類がかなり変わっており、漁業者にも大きな影響があることなどをお話しいただきました。

それぞれの立場から説得力のあるお話に、参加者はショックを受けながらも“何かしなければいけない”という意識を持っていたのだと思います。

「自らが行動を起こすために何が重要なのか」「何を優先すればよいのか」といった質問が多くあり、講師の方々に丁寧にお答えいただきました。

(事務局長 小林幸司)

なぜ、今行動しなければならないのか?

ギャラリートークの様子



江守正多さん



ケンタロ・オノさん



太齋彰浩さん

講演の様子



宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ UNICEF (国際連合児童基金)は、世界の子どもの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数：一般 学生 173、団体 6 2021 年 12 月現在

「国際理解学習会～宮城県に住んでいる外国人との交流～」

9月22日(木)、みやぎ生協文化会館ウィズで、「国際理解学習会」を開催し15人が参加しました。

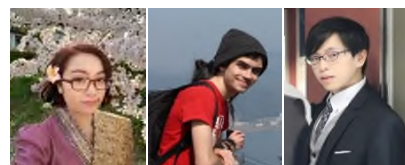
講師として、(公財)宮城県国際化協会(MIA)所属のチップソン スワブッタさん(ラオス)、フェルナンデス カロ アントニオさん(スペイン)、カオ ナギさん(アメリカ)の3人を迎え、それぞれ自国の文化や暮らしについてお話いただきました。

また10月20日(木)には、チップソンさんにラオスの家庭料理なども紹介してもらいました。

宮城県国際化協会は、県民の豊かな国際感覚を育み、国際交

流及び協力に関する幅広い活動を促進するための活動を行っていますが、国際理解教育推進のための外国人講師派遣もその一つです。新型コロナウイルスの感染が拡大する前は、県民との様々な国際交流活動を行っていましたが、現在は宮城県にお住まいの外国人への支援が中心となっているということです。

宮城県には留学生や技能実習生など、たくさんの外国人が住んでいます。私たちが住んでいる街に暮らす外国人のことを理解することは、とても大切なことです。多文化共生をすすめ、様々な人と連携することで摩擦



④講師のみなさん 左からチップソンさん、フェルナンデスさん、カオさん
⑤学習会ではラオスの民族衣装を着たり民族楽器にも挑戦しました。

が起こりにくい社会にしていきたいと思います。

(事務局長 大友千佳子)

「ユニセフ来訪講座」

9月30日(金)、大崎市長古川中学校福祉委員会の生徒と先生4人が来訪し、ユニセフについて学習しました。古川中学校福祉委員会ではユニセフ募金活動を行い、その募金もご持参いただきました。

11月10日(金)には、宮城県立古川高校1年生の2グループが来訪しました。『総合的な探求

の時間』の学習テーマとして、児童労働や戦争・貧困を中心に、ユニセフの支援活動を学習しました。「自主的な学習テーマに、ユニセフを選んでいただいたことに感謝します。世界の子どものたちの実情にこれからも目をむけてください」とお話ししました。



なぜ児童労働はあるのか？なぜ学校に行かないのか？一緒に考えました。



戦争と貧困について意見交換しました。



DVD 上映会「荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 現地活動 35 年の軌跡～」

- 日時：2023 年 1 月 21 日(土) 10：30～12：00
- 会場：みやぎ生協文化会館ウィズ会議室 1 (仙台市泉区八乙女 4-2-2)
- 参加：無料

©日本電波ニュース社 中村哲医師

行事予定

※新型コロナウイルス感染拡大によっては、内容の変更または中止する場合があります。

学習会

“これおかしいよね？”をあなたに代わって正します！

「知ってほしい 適格消費者団体のこと」

NPO 法人消費者市民ネットとうほくは、2017 年東北で初めて「適格消費者団体」として内閣総理大臣の認定を受けました。消費者から寄せられた「高額な解約手数料を請求された」「広告の記載内容が虚偽・誇大ではないか」などについて、専門家が検討し、事業者に対して改善の申し入れを行っています。

適格消費者団体が日々どのようなことをしているのか、消費者にとってのメリットは何なのかについて学習します。

2023 年 2/20 (月) 13:30~15:30

●メイン会場 ⇒みやぎ生協柏木店集会室
(フォレスト仙台 5 階)

定員 20 人

●WEB 配信 ⇒定員 50 人

●参加費無料

講師

適格消費者団体認定 NPO 法人
消費者市民ネットとうほく理事長

吉岡 和弘さん

(仙台弁護士会・弁護士)

1947 年北海道生まれ。サラ金・クレジット被害、豊田商事被害、原野商法被害、欠陥住宅被害などの消費者問題に積極的に取り組む。日弁連消費者問題対策委員会委員長、全国市民オンブズマン連絡会議代表幹事、宮城教育大学非常勤講師を歴任するなど、多方面で活躍。



主催：消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ

仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5 階
TEL022-276-5162 (宮城県生協連内)

講演会

「どうなる 私たちの暮らし ～物価高と消費税～」

急激な円安、物価高騰が、コロナ禍で苦しい私たちの暮らしや中小事業者にも影響を及ぼし地域経済に暗い影を落としています。

特にその影響は、低所得者、雇用が不安定な人や非正規労働者など社会的に弱い立場にある人ほど大きくなっており、貧困による格差の拡大が懸念されます。消費税率 10%は物価高のなか、さらに国民の負担を強いているものとなっています。物価高が続けば家計の購買力が落ち、景気回復の足取りは不安定になります。

2023 年 3/1 (水) 13:30~15:00

●会場 日立システムズホール仙台 2 階 シアターホール
(青年文化センター)

●定員 500 人

●参加費無料

主催：消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城

仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5 階
TEL022-276-5162 (宮城県生協連気付)



講師 森永 卓郎さん

1957 年生まれ。東京都出身。1980 年東京大学経済学部卒業。日本専売公社、日本経済研究センター、経済企画庁総合計画局、(株)三和総合研究所(現 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)) 主席研究員等を経て、現在は経済アナリスト、獨協大学経済学部教授。